

Q1：今年度上期に実施する自己株式取得の上限価格はなぜ 200 億円に設定したのか？

また、今年度下期の自己株式取得に関しては、どのように考えているか？

A1：2026 年度の ROE 目標 8%の達成にあたっては、「利益の向上」と「自己資本の管理」の両面で実現していきたいと考えており、今年度上期中に 200 億円の自己株式を取得することが適切であると考えた。下期については、現時点では特に決まったものはなく、機動的に実施の判断をしたいと考えている。

Q2：OGUSA のフリーポート LNG 液化プロジェクト、サビン・シェールガスプロジェクト、電力の各事業について、今後の事業環境等を教えてほしい。

A2：フリーポート LNG 液化プロジェクトについては、報道されている通り、トラブルの予防工事等により一部の稼働が停止している。（注：5/15 現在ではタンクの一部は引き続き修繕中であるものの、全 3 系列の液化設備が稼働している。）我々はマイナーポジションであるが、同じくマイナーポジションの JERA 社と協働しながら、フリーポート社にノウハウを共有している。さらに米国当局 FERC の厳しい安全基準のチェックもあり、今後は安定的に操業できるのではないかと考えている。

サビン・シェールガスプロジェクトについては、現地のガス価格の指標である HH 価格が低水準で推移しているため、23 年度は生産量を抑えた。足元は少し HH 価格が上昇してきていることもあり、市況を見ながら生産量を調整していく。利益の方向としては増加することを期待いただきたい。

電力事業については、23 年度は市況の影響や、再エネの運開などもあり、利益が上昇した。今後はアセットの入れ替えに挑戦していきたい。

Q3：海外エネルギー事業では、インド都市ガス事業への投資も発表している。インドを含めたアジアの戦略について教えてほしい。

A3：10 数年前からシンガポールを皮切りに東南アジアに進出し、特に経済成長著しいインドでのガス事業への投資について 2020 年ごろから検討を始めた。当社出資先は、インドの複数のエリアにおいて 8 年間の販売独占権を有しており、アセットも独占所有している。現在は政府から国産天然ガスを調達し、我々が敷設したガス導管等を使って、交通用、産業用、家庭用のお客さまにガスを供給している。他国で本格的なガス事業を行う初めての機会であり、今年度は理事を派遣しているなど、引き続き力を入れていきたい。

Q4: 2024 年度見通しの ROIC4.7%について、セグメント別の内訳は？

A4: 2024 年度見通しのセグメント別の ROIC は、国内エネルギーが 2.8%、海外エネルギーが 7.7%、LBS が 5.4%。

Q5: Q4 に関し、国内エネルギーの ROIC が低い、今後の ROIC 向上策は？

A5: 中期計画には LNG 卸販売契約の更新や拡大による収益向上などを織り込んでいる。

電力については、姫路発電所が運転開始する 2026 年までの期間は、相当な金額の投資により BS が膨らむため ROIC の向上は厳しい。2026 年の運転開始後は、減価償却が始まり BS は軽くなり、さらに高効率な発電により利益が向上するため、ROIC 改善に寄与すると考えている。

Q6: 長期脱炭素オークションを落札したというプレスがあったが、姫路天然ガス発電所 3 号機の戦略的な位置づけは？

A6: 姫路発電所は 3 号まで建設する想定で環境アセスが終了しており、1・2 号機について意思決定した状況であった。今般、長期脱炭素オークションを活用することで、当社の発電事業の利益について予見可能性が確保できることもあり、応札した。

今後、データセンター等の電力需要が拡大し、石炭火力や、老朽化した電源が廃止されていく中で、電力の供給力は引き続き重要になるものと想定している。また、変動電源である再エネが増加していく中、需給調整力に優れた天然ガス火力の重要性が益々高まるため、当社は天然ガス火力発電所の運転を通じて今後も様々なニーズに答えていきたい。

注意事項：本書に記載される情報は、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。